

λ（ラムダ）プロジェクトに関する提案 2016

～北海道新幹線が開業した今、津軽海峡交流圏の未来を変える挑戦～



平成28年7月

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

はじめに

北海道新幹線が開業し、津軽海峡交流圏時代が始まりました。「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」（以下「ラムダ作戦会議」）はこの幕開けに向けて、今すぐすべきこと、開業までにすべきこと、中長期的視点ですべきことについて真剣に話し合い、提案を行ってきました。

この提案集は、北海道新幹線開業を契機とし、津軽海峡交流圏形成を目指した取組「ラムダプロジェクト」を推進するエンジン役として、民間委員で構成する「ラムダ作戦会議」がまとめたもので、平成 28 年度の提案集となります。

これまでの提案を振り返ってみると、実に様々な提案がなされ、実行されてきたといえます。ラムダ作戦会議のメンバーには「自ら汗をかく」という掟があります。この掟に沿って、各メンバーは提案を行うだけでなく、それぞれの分野で活動を行ってきました。たとえば、「青森県津軽海峡交流圏公開生バトル IN 函館」「津軽海峡マグロ女子会発足」など、メンバーが汗をかき、進めてきた活動です。

また、ラムダ作戦会議のメンバーだけが汗を流しているわけではありません。提案集の後半部分では、圏内の企業や団体、行政における取り組みを紹介しています。この提案集は、すべてをラムダ作戦会議のメンバーが実行することを目指して発表しているものではなく、この提案集を読んだ圏民が、ここからヒントを得て自らの活動を起こすきっかけ作りになればという思いで作成しました。その思いが通じているのか、メンバー以外の活動においても津軽海峡を超えた活動が活発になっています。

人々の意識を変えることは難しいですが、津軽海峡交流圏という地域の新しい見方を提示することで、なんらかの変化を生み出すことは可能です。実際ラムダ作戦会議を通じ、津軽海峡交流圏形成による地域の未来を提示することにより、確実に圏民の意識は変わってきたと考えています。津軽海峡交流圏を意識すれば、情報の交換が始まり、人々の行き来が始まります。それに伴い、モノも、経済も動きます。こうして交流圏が形成されるのです。

冒頭で述べたように、北海道新幹線開業は津軽海峡交流圏時代の幕開けを意味します。そしてそれは、ゴールにたどり着いたということの意味するのではなく、ようやくスタート地点に立てたということの意味しています。つまり、これからが本番です。この提案集が今後も活用され、本格的な津軽海峡交流圏時代の到来につながることを期待しています。

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 議長 森 樹男

■目次

I 北海道新幹線開業後の津軽海峡交流圏形成に向けて～委員からの提案～

3 ページ～37 ページ

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議からの提案です。

これまでの提案は北海道新幹線開業という大きな転換期に向け津軽海峡交流圏を盛り上げるという視点が多かったのですが、今年度の提案は北海道新幹線開業を受け、中長期的な視点で提案しています。面白く、楽しく、津軽海峡交流圏を盛り上げるために、皆さんの活動のヒントにしていただけると幸いです。

- 平成 28 年度提案…………… 4 ページ～20 ページ
- これまでの提案と取組状況…………… 21 ページ～37 ページ

II 今年度の活動事例

38 ページ～56 ページ

津軽海峡交流圏の形成に向けたλ（ラムダ）プロジェクトに関する活動事例を紹介します。

○今年度の活動事例（青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議）

…………… 39 ページ～48 ページ

○今年度の活動事例（企業・団体等）…………… 49 ページ

○今年度の活動事例（行政）…………… 50 ページ～56 ページ

III 関係資料

57 ページ～66 ページ

- 1 津軽海峡交流圏の形成を目指して～λ（ラムダ）プロジェクト～
- 2 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議名簿
- 3 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の活動記録
- 4 北海道新幹線新青森・新函館北斗間について